

報 告

杏林医学会 第49回例会 開催報告

処方箋のないキャリア – 女性外科医・母・移民として生きた20年 –

(演者 Ayako Miyakawa MD, PhD, Senior Consultant, Department of Urological Surgery,
Pelvic Cancer Unit, Karolinska University Hospital, Stockholm, Sweden.
宮川絢子先生 (スウェーデン王国カロリンスカ大学病院 骨盤腫瘍部門 泌尿器外科))

井 上 真

杏林大学医学部眼科学教室

宮川絢子先生は慶應義塾大学をご卒業後に耳鼻咽喉科に入局されましたが、2年後に同学で女性初の泌尿器科医を志され転科されました。博士号を取得された後にカロリンスカ研究所、ケンブリッジ大学にポスドクとして留学されました。帰国後は琉球大学に勤務されましたが、再度カロリンスカ研究所でのポスドク留学を経て、東京医科大学に赴任されました。その後スウェーデンに移住され、現地の国家免許を取得された後に泌尿器科の専門医も取得されています。

宮川先生は1996年～1999年のカロリンスカ研究所の一度目のポスドク時代に、杏林大病理学教室特任教授でいらっしゃる市村幸一先生の研究室で働かれ、一緒にケンブリッジ大学に移動された縁もあったそうです。カロリンスカ大学病院はスウェーデン公立で、世界での病院ランキングが5位の病院です。併設しているカロリンスカ研究所は公立医学系大学および研究施設として、またノーベル生理・医学賞決定機関としても知られていますが、多くのノーベル賞受賞者も輩出している研究機関です。宮川先生は、ロボット手術を数多く執刀される傍ら、昨年は研究結果がScience誌に掲載されました。双子のお子さんの母として、「スウェーデンで働く日本人医師」としてのキャリア形成や海外での医療実践について現地開催だけでなくZoom配信併用でご講演いただきました。

スウェーデンは社会保障に手厚い国として知られていますが、その医療制度や育休を含めた働き方や医療文化は日本とは大きく違ってきます。国民皆保険制度のもとで診療所でのプライマリケアが充実していて、医療圏の大病院や大学病院を受診するには専門医への紹介状がないと受診することが出来ません。また、各疾患の専門医療はセンター



化されていますが、その質は審査され、センターの資格を剥奪されることもあるそうです。スウェーデンの医療の特徴ですが、大病院はほぼ公立病院で、厳しいアクセス制限があります。安価な自己負担額で公平な医療を提供していて、診療の優先順位は純医学的な根拠に基づき判断されます。さらに、費用対効果判定により治療の選択および中止が徹底して行われます。この公平性は極めて高く、生活保障受給者であっても富裕層であっても、医療費の自己負担額は同一ということでした。

コロナ禍における医療体制については、マスク着用を行わない自然免疫に準じた対応と、救急治療では徹底したトリアージを国の対策として行っていました。合併症を持っている高齢者より若年者の治療を優先していたことから、その厳しい公平性が伺えます。これについて詳細に書かれているスウェーデンの新型コロナ対策の指揮をとった元国家疫学者アンデシュ・テグネル氏の手記として



写真中央が宮川絢子先生

2023年にスウェーデンで発刊された『TANKAR EFTER EN PANDEMI: och lärdomarna inför nästa』ですが、宮川先生は日本語版である「学際的パンデミック対策：新型コロナウイルスと戦ったスウェーデン元国家疫学者の証言」の翻訳もされています。

スウェーデンでの研究と臨床を両立する環境、多職種との連携、ワークライフバランスなどについてもご紹介いただきました。男女は平等で、男性の育児参加も積極的です。妊娠中の休暇や育児、病児看護、傷病休暇など家族を優先

する社会で、そのために起こってくる不便については許容される社会的なコンセンサスがあるそうです。そのような環境の中でも、研究での論文の筆頭者争いやロボット手術を始めるにあたって、様々な困難を乗り越える必要があったこともお話しいただきました。

海外で医師として働くまでの経緯や課題に触れられることで、国際的なキャリアを志す若手医療者へのメッセージをいただき、グローバルな視点から医療を考える目が覚めるような講演でした。